授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
こどもと健康		演習	早坂　惠子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１０回	１単位	１年前期	必修(保)･必修(幼)

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の内容・方法に関する科目 幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分 領域及び保育内容の指導法に関する科目	授業内での確認小テスト（70%） 課題・レポート（30%）

［授業の目的・ねらい］

・乳幼児は、生涯にわたる心身の健康の基礎を培う大切な時期である。この重要な時期である乳幼児が健やかに成長するための保育の基本を理解し、保育者として必要な考え方や姿勢、援助の仕方を身につける。

［授業全体の内容の概要］

・心身の健康に関する領域である「健康」について、保育のねらいや内容を明らかにするとともに乳幼児の心と体の発育・発達の特性や身体の成長に関わる問題点などを理解・認識する。
・健康な心と体を育てたり、幼児自らが健康で安全な生活を作り出す力を育てたりする援助のあり方や具体的な指導内容を学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・幼稚園教育要領及び保育所保育指針等の領域「健康」について、ねらいと内容を理解する。
・ねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。
・乳幼児の健康管理に関わる指導上の留意点を理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている領域「健康」のねらい、内容、全体的な構造を理解する。
2	健康に関する世界の流れと人間の権利について。
3	子どもの発育と発達について。(身体的、運動系の発達)
4	子どもの発育と発達について。(神経系、消化器系等の発達)
5	子どもを取り巻く環境の現状と健康課題について。
6	保育における領域「健康」について。 (幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中の「健康」)
7	保育における領域「健康」について。 (幼児期に育みたい資質・能力、３つの視点と５領域等)
8	保育における領域「健康」について。 (幼児期の終わりまでに育って欲しい姿・保幼小の接続と連携)
9	子どもの健康と生活習慣について。 (基本的生活習慣・食育への取り組み等)
１０	振り返りとまとめ

［使用テキスト・参考文献］

・保育者をめざすあなたへ　子どもと健康　　勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行　　編著（みらい）
・幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月改訂)　・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示厚生労働省）
・幼保連携型認定こども園教育　保育要領（平成 29 年 3 月告示内閣府、文部科学省、厚生労働省）

備考

定期テストは実施しない

実務経験
40 年間の保育所勤務（内 26 年間、園長として勤務）と、現在の千葉県保育所等巡回支援事業である保育士支援アドバイザー、保育事業者支援コンサルタント等の活動を活かし、現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を行なう。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
こどもと環境		講義	早坂惠子・沖田健次・森　大
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
10 回	１単位	1 年前期	必須科目

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の内容・方法に関する科目	・提出された制作物　（２０％） ・課題　（10%） ・授業内小テスト　（７０％）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
領域に関する専門的事項	

［授業の目的・ねらい］

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。

［授業全体の内容の概要］

・領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識技能を身につける。特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりの発達等について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

①幼児を取り巻く環境と幼児の発達にとっての意義を理解する。
②幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。
③幼児期の標識・文字等、情報・施設との関りの発達を理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1	授業概要の説明、子どもと環境、「環境」の全体構造と評価
2	生きる力の基礎と領域「環境」―自立する心を育む環境―
3	乳幼児期の発達における環境との関わり　―子どもの好奇心・探求心を育む環境―　①
4	乳幼児期の発達における環境との関わり　―子どもの好奇心・探求心を育む環境―　②
5	身近な環境構成　①花壇や畑等の整備について
6	身近な環境構成　②花壇や畑等の整備について
7	幼児期の物理的、数量・図形との関り―乳幼児期の物理的、数量・図形との関りと具体的な活動―
8	幼児期の自然との関り　―乳幼児期の生物・自然との関りと、具体的な活動―　①生き物図鑑づくり
9	幼児期の自然との関り　―乳幼児期の生物・自然との関りと、具体的な活動―②簡単な飼育・栽培等
１０	振り返りまとめ　関係機関の働きと現在の課題（幼保小接続の視点で）

［使用テキスト・参考文献］

・「保育内容　環境」　編著者　酒井幸子、守　巧　（萌文書林）2018 年 12 月 19 日発行
・幼稚園教育要領　（平成 29 年 3 月告示文部科学省）・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省）

備考

定期テストは実施しない

実務経験〔早坂〕
40 年間の保育所勤務（内 26 年間、園長として勤務）と、現在の千葉県保育所等巡回支援事業である保育士支援アドバイザー、保育事業者支援コンサルタント等の活動を活かし、現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を行なう。
実務経験〔沖田〕
幼保連携型認定こども園（副園長）、幼稚園（延長）としての勤務経験を活かして、幼児教育における「環境」の意味や役割について、保育現場における具体的な事例や活動内容などにふれ、専門的知識と感性豊かな保育者となるためのより実践的な授業を実施する。
実務経験〔森〕
【個展】 「森　大　個展」　「秋山画廊」　東京　2011 年 12 月 「森　大　-maquette-」　「キアズマ珈琲　gallery」　東京　2010 年 10 月 「森　大　展　metabolism」　「GALERIE SOL」東京　2006 年 10 月 「森　大　個展」　「GALERIA RASEN」東京　2001 年 3 月 【グループ展】 「横浜の森美術展 6」　「横浜動物の森公園予定地」　横浜　2013 年 10 月 「11　POINT」　「BOX KIOKU」　東京　2010 年 9 月 「ANBD Asia Network Beyond Design2010」　清州（韓国）. 台南（台湾）. 天津（中国）. 横浜（日本）2010 年 7 月 「ANBD Asia Network Beyond Design2009」　天安（韓国）. 台南（台湾）. 天津（中国）. 奈良（日本）2009 年 7 月 「THE 5th ART PROGRAM OME 2007」　「青梅市西分町公会堂」　東京　2007 年 11 月 「第 7 回 CONTEMPORARYART TRIAL「CAT 展」　「グリーンホール相模大野」　神奈川　2007 年 9 月 「07 POINT」　「BOX KIOKU」　東京　2007 年 3 月 「maquette 展」　「GALERIE SOL」　東京　2006 年 10 月 「cm3 空間表現三人展」　「明星大学展示室」　東京　2005 年 8 月 「千崎千恵夫・森　大展」　「GALERIE SOL」　東京　2004 年 11 月 「青梅野外展」　「GALERIA RASEN」　東京　2002 年 7 月 「志向する空間／それぞれの視座 Vol.3」　「GALERIA RAEN」　東京　2001 年 11 月 「WORKS2000」　「文房堂ギャラリー」　東京　2000 年２月 「第二回 FUJINO 国際アートシンポジウム‘99」　神奈川県藤野町市街地　1999 年 8 月 「三人展」　「Gallery KARIN スペースⅡ」　東京　1998 年 3 月 【他】 Japan Fashion Week in TOKYO 2008 (株)キャンザーオンズ「ENCADREURS」アートディレクター　「国立代々木競技場第一体育館」　東京　2008 年 2 月 「さいたま新都心駅前パブリックアート」　さいたま新都心駅前広場　恒久設置　2000 年 5 月

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実習）	授業担当者
こどもと言葉		講義	柴田　茂樹
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１０回	単位	１年前期	必修（保）・必修（幼）

保育士養成課程による系列（告示等による教科目名）	［単位認定の方法及び基準］（試験やレポートの評価基準など）
保育の内容・方法に関する科目	・ミニレポート・小テスト（６０％）・ ・授業やグループワークへの参加意欲（２０％） ・課題（２０％）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
領域に関する専門的事項	

［授業の目的・ねらい］

・幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容を理解する
・乳幼児の発達過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構成方法を学ぶ

［授業全体の内容の概要］

領域「言葉」の指導の基盤となる、豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につける。具体的には、人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・言葉のもつ意義と機能を理解する
・言葉における感覚を豊かにする実践方法を身につける
・言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財についての知識を身につけ、その意義について理解する

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1	人間にとっての「言葉」とは　領域「言葉」のねらい及び内容を通して理解する －人間にとっての言葉の意義と機能―
2	子どもは、言葉をどのようにして獲得するのか －子どもの言葉の発達過程：言葉前のことば、誕生、話し言葉の育つ道筋、書き言葉(文字)の習得まで
3	「言葉に対する興味・感覚」 －言葉の美しさ、楽しさを感じる(演習)－
4	言葉に対する感覚を豊かにする実践 －しりとり、わらべ歌、言葉集め、言葉遊びのいろいろと保育への取り入れ方
5	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際 －子どもと楽しむ言葉遊びを考えよう「言葉で考える、表現する、遊びから生まれる言葉」
6	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」 －子どもにとっての「児童文化財」の意義―
7	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の実際 －絵本、紙芝居、お話作りなどの種類や歴史。保育への取り入れ方など－
8	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践 －子どもと一緒に絵本・紙芝居を読もう（模擬保育）
9	振り返りとまとめ
１０	子どもを取り巻く社会的環境　関係機関の働き（小学校との連携）

［使用テキスト・参考文献］

保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」　馬見塚 昭　小倉 直子／編著　2022年
　保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
こどもと音楽表現		講義	鎌田千佳
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１０回	１単位	１年前期	選択

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
必修科目	授業への取り組み・学びの過程の評価（70%） 課題レポート（30%）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
領域に関する専門的事項の科目	

［授業の目的・ねらい］

領域「表現」を理解し、音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、感性・創造性を身に付ける

［授業全体の内容の概要］

領域「表現」のねらい及び内容について理解を深める。
幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境構成などを実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

幼児のあそびや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。
五感を通して表現する楽しさを分析することができる。
音楽表現の知識・技能を生かし表現活動に展開させることができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	授業ガイダンス・領域「表現」のねらい及び内容を理解する
2	幼児の表現の発達を理解する。
3	環境との対話：環境音を楽しむ。
4	文化との対話：わらべうた・子どもの歌の体験から言葉と歌、歌うことについて考える。
5	素材との対話：五感を通して身近な素材に触れ、その特性を生かして音楽表現を体験する。
6	身体をつかった音楽表現：ボディパーカッション
7	多感覚をいかした表現・イメージの表現①　心情や情景を音で表現してみよう
8	多感覚をいかした表現・イメージの表現②　言葉を音楽で表現してみよう
9	表現演習　音楽的表現創作
１０	ICT の活用と総括

［使用テキスト・参考文献］

乳幼児の音楽表現　日本赤ちゃん学会監修　小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井泰子編著　中央法規
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示文部科学省）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
こどもと造形表現		講義	森　　大
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１０回	１単位	１年後期	選択必修（保）・必修（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の内容・方法に関する科目	課題提出物 40% 授業態度 10% 授業内確認小テスト 50%
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
保育の内容・方法に関する科目	

［授業の目的・ねらい］

幼児の年齢や発達に合わせた造形表現指導法を実践し理解する。また保育者として求められる造形表現技能の基礎技能を習得する。

［授業全体の内容の概要］

領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

〇幼児の表現の姿や、その発達を理解する。
〇身体、造形、音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1	ガイダンス。 表現の源に出会う　ー身体・気付き・対話をもとにー　表現とは何か、その源に出会う体験(伝え合うー受け止め合う)を通して表現の生成過程を分析的に捉え、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。
2	自然との対話　ー身体の諸感覚を研ぎ澄ましてー　身近な自然や素材の特性に触れ、感じる、見る、聴く、楽しむことを通してイメージを豊かにする。自然素材を収集しモビール制作
3	素材との対話　ー素材の特性を生かしてー　身近な素材に身体の諸感覚を通じて触れ、その特性を生かして身体・造形・音楽表現などの様々な表現を体験し、幼児の表現活動に展開する可能性を探る。土遊びから粘土造形へ。
4	生活との対話　ー多感覚性を生かしてー 多感覚性に着目し、身近な遊びや生活に心が動いたことなどをもとに、身体・造形・音楽などで表現する香りや味わいのイメージを表すなど、身近な音に感覚を研ぎ澄ませ、音を表現化する。
5	他者との対話　　ーコミュニケーションとしての表現活動ー 表現は対象への呼びかけ―応答＝コミュニケーションとして成り立つことを体験し、表現を生成する過程を分析的に捉える。協同での壁面政策を事例に楽しさを生み出す要因についても分析する。
6	幼児の表現との対話　ーみて、感じて、読みとる幼児の姿ー 幼児の表現行為とそれに伴う痕跡をじっくり見る。幼児の素朴な表現を見いだし、受け止め、共感するとともに、心身の発達や環境その他の背景を踏まえ、分析的に読みとる方法を学ぶ。偶発性を楽しみ、表現として捉える。
7	文化との対話　　-文化的な表現をもとにパフォーミング・アーツ(劇化など)へー 古今東西の文化的な表現をもとに鑑賞遊びを通じて親しみ、グループワークとして再構成し表現する(劇化など)、身体による表現はもちろん、造形、音楽、言語(セリフ)もとりいれたい。舞台劇制作を通じて、集団表現や鑑賞について学び、表現力を身に付ける。
8	ＩＣＴを活用した表現活動。　自身の作品をポートフォリオにまとめ、幼児の表現を体系的に捉える。
9	振り返りとまとめ
１０	学習のまとめを発表する。幼小接続について。

［使用テキスト・参考文献］

幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示文部科学省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
保育内容　表現（2018 年版　光生館）

備考

定期テストは実施しない

実務経験
【個展】 「森　大　個展」　　「秋山画廊」　東京　2011 年 12 月 「森　大　-maquette-」　「キアズマ珈琲　gallery」　東京　2010 年 10 月 「森　大　展　metabolism」　「GALERIE SOL」東京　2006 年 10 月 「森　大　個展」　「GALERIA RASEN」東京　2001 年 3 月 【グループ展】 「横浜の森美術展 6」　「横浜動物の森公園予定地」　横浜　2013 年 10 月 「11　POINT」　「BOX KIOKU」　東京　2010 年 9 月 「ANBD Asia Network Beyond Design2010」　清州（韓国）. 台南（台湾）. 天津（中国）. 横浜（日本）2010 年 7 月 「ANBD Asia Network Beyond Design2009」　天安（韓国）. 台南（台湾）. 天津（中国）. 奈良（日本）2009 年 7 月 「THE 5th ART PROGRAM OME 2007」　「青梅市西分町公会堂」　東京　2007 年 11 月 「第 7 回 CONTEMPORARYART TRIAL「CAT 展」　「グリーンホール相模大野」　神奈川　2007 年 9 月 「07 POINT」　「BOX KIOKU」　東京　2007 年 3 月 「maquette 展」　「GALERIE SOL」　東京　2006 年 10 月 「cm3 空間表現三人展」　「明星大学展示室」　東京　2005 年 8 月 「千崎千恵夫・森　大展」　「GALERIE SOL」　東京　2004 年 11 月 「青梅野外展」　「GALERIA RASEN」　東京　2002 年 7 月 「志向する空間／それぞれの視座 Vol.3」　「GALERIA RAEN」　東京　2001 年 11 月 「WORKS2000」　「文房堂ギャラリー」　東京　2000 年２月 「第二回 FUJINO 国際アートシンポジウム‘99」　神奈川県藤野町市街地　1999 年 8 月 「三人展」　「Gallery KARIN スペースⅡ」　東京　1998 年 3 月 【他】 Japan Fashion Week in TOKYO 2008 (株)キャンザーオンズ「ENCADREURS」アートディレクター　「国立代々木競技場第一体育館」　東京　2008 年 2 月 「さいたま新都心駅前パブリックアート」　さいたま新都心駅前広場　恒久設置　2000 年 5 月

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
保育内容「健康」指導法		演習	齊藤　静枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年後期	必修(保)･選択(幼)
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の内容・方法に関する科目 幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分 領域および保育内容の指導法に関する科目		授業内での確認小テスト（70%） 課題・レポート(30%)	

［授業の目的・ねらい］

・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本及び、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。乳幼児の発達に即した主体的・対話的な学びができるよう具体的指導場面を想定した保育の構成を身につける。

［授業全体の内容の概要］

・領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解する。乳幼児の健康な心身を育み、自ら健康で安全な生活を営む力を養うために、乳幼児期からの健康体力作りの習得に努め、より実践的な学びとして、乳幼児の運動遊びの計画・実践・改善する力を身につける。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・乳幼児期の心身の発育発達の特徴や問題点を理解する。
・保育者として必要な身体活動能力を整え、安全かつ健康で楽しみながら子どもたちの心身の成長を促せるような運動遊びに即した環境構成、援助のあり方を理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1	子どもの運動遊びについて。(運動遊びと運動とその現状を知る)
2	子どもの運動遊びについて。(運動遊びの重要性)
3	子どもの群れ遊びとその重要性を学ぶ。
4	運動遊びにおける特別な支援を要する子どもへの援助を学ぶ。
5	子どもの運動遊びと行事。(指導計画と行事の在り方)
6	子どもの運動遊びと行事。(運動会競技をデザインする)
7	運動遊びの展開方法について(ゲーム遊びをデザインする)
8	運動遊びの指導計画と評価について。(指導計画の作成)
9	運動遊びと環境について(幼児の動きを引き出す環境と遊具)
１０	運動遊びと環境について(子どもと自然)
１１	子どもの事故や病気について(乳幼児期の感染症の実態と対策)
１２	子どもの事故や病気について(保育における事故と安全対策)
１３	保育における保健計画と専門機関との連携について
１４	振り返りとまとめ
１５	減災と防災について

定期試験は実施しない

［使用テキスト・参考文献］

・保育者をめざすあなたへ　子どもと健康　勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行　　編著（みらい）
・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示厚生労働省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示内閣府、文部科学省、厚生労働省）

備考

定期テストは実施しない

実務経験
公立保育所において保育士（正職）として 40 年間勤務する内、クラス担任 30 年、園長、副園長として 10 年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
保育内容「環境」指導法		演習	早坂惠子・沖田健次・森　大
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年後期	必修（保）・必修（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の内容・方法に関する科目	・提出された制作物　（２０％） ・課題　（10%） ・授業内小テスト　（７０％）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	

［授業の目的・ねらい］

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「環境」で「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関り、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」という視点から具体的な子どもの育ちを捉える。
・子どもが自らの興味や関心、能力に応じて環境に関わることで、子どもの自主性、主体性が育つことを学ぶ

［授業全体の内容の概要］

・領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

①幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。
②幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	ガイダンス、保育内容の基本構造と領域「環境」のねらい、内容について
2	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園内活動から）―園内で行われる幼児の遊びや活動―①
3	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園内活動から）―園内で行われる幼児の遊びや活動―②
4	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際（園内活動から）―園内で行われる幼児の遊びや活動―③
5	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際　①花壇や畑等の整備について
6	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際　②花壇や畑等の整備について
7	標識・文字等に関わる保育の実際　①
8	標識・文字等に関わる保育の実際　②
9	数量・図形等に関わる保育の実際（指導立案）―生活や遊びの中で、数量・図形等に関心・感覚を豊かにする活動とは―　①
１０	身近な素材や自然物を用いた保育の実際（指導立案）②
１１	身近な素材や植物を用いた保育の実際
１２	生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際　―日本文化に触れる活動―
１３	子どもを取り巻く社会環境、保育環境による課題を考える
１４	保育内容「環境」の振り返りとまとめ
１５	環境に関わる現代的課題

［使用テキスト・参考文献］

・「保育内容　環境」　編著者　酒井幸子、守　巧　（萌文書林）2018 年 12 月 19 日発行
・幼稚園教育要領　（平成 29 年 3 月告示文部科学省）・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省）

備考

定期テストは実施しない

実務経験〔早坂〕
40 年間の保育所勤務（内 26 年間、園長として勤務）と、現在の千葉県保育所等巡回支援事業である保育士支援アドバイザー、保育事業者支援コンサルタント等の活動を活かし、現場の実情と課題、指導内容などに触れ、より実践的な授業を行なう。
実務経験〔沖田〕
幼保連携型認定こども園（副園長）、幼稚園（園長）としての勤務経験を活かして、幼児教育における「環境」の意味や役割について、保育現場における具体的な事例や活動内容などにふれ、専門的知識と感性豊かな保育者となるためのより実践的な授業を実施する。
実務経験〔森〕
【個展】 「森　大　個展」　「秋山画廊」　東京　2011 年 12 月 「森　大　-maquette-」　「キアズマ珈琲　gallery」　東京　2010 年 10 月 「森　大　展　metabolism」　「GALERIE SOL」東京　2006 年 10 月 「森　大　個展」　「GALERIA RASEN」東京　2001 年 3 月 【グループ展】 「横浜の森美術展 6」　「横浜動物の森公園予定地」　横浜　2013 年 10 月 「11　POINT」　「BOX KIOKU」　東京　2010 年 9 月 「ANBD Asia Network Beyond Design2010」　清州（韓国）. 台南（台湾）. 天津（中国）. 横浜（日本）2010 年 7 月 「ANBD Asia Network Beyond Design2009」　天安（韓国）. 台南（台湾）. 天津（中国）. 奈良（日本）2009 年 7 月 「THE 5th ART PROGRAM OME 2007」　「青梅市西分町公会堂」　東京　2007 年 11 月 「第 7 回 CONTEMPORARYART TRIAL「CAT 展」　「グリーンホール相模大野」　神奈川　2007 年 9 月 「07 POINT」　「BOX KIOKU」　東京　2007 年 3 月 「maquette 展」　「GALERIE SOL」　東京　2006 年 10 月 「cm3 空間表現三人展」　「明星大学展示室」　東京　2005 年 8 月 「千崎千恵夫・森　大展」　「GALERIE SOL」　東京　2004 年 11 月 「青梅野外展」　「GALERIA RASEN」　東京　2002 年 7 月 「志向する空間／それぞれの視座 Vol.3」　「GALERIA RAEN」　東京　2001 年 11 月 「WORKS2000」　「文房堂ギャラリー」　東京　2000 年２月 「第二回 FUJINO 国際アートシンポジウム‘99」　神奈川県藤野町市街地　1999 年 8 月 「三人展」　「Gallery KARIN スペースⅡ」　東京　1998 年 3 月 【他】 Japan Fashion Week in TOKYO 2008 (株)キャンザーオンズ「ENCADREURS」アートディレクター　「国立代々木競技場第一体育館」　東京　2008 年 2 月 「さいたま新都心駅前パブリックアート」　さいたま新都心駅前広場　恒久設置　2000 年 5 月

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
保育内容「言葉」指導法		演習	柴田　茂樹
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年後期	必修（保）・必修（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の内容・方法に関する科目	授業（グループ討議・模擬保育）への発表（４０％） ミニレポート・最終レポート（３０％） 課題作品（３０％）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	

［授業の目的・ねらい］

領域「言葉」のねらいと内容や、子どもの言葉の発達過程について理解を深める。子どもたちが自分の経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話すことを聞こうとする意欲や態度を身に付けるための援助・保育方法を知り、獲得する。言葉を豊かに育てる児童文化財・遊びの知識を獲得し、保育環境をデザインする力を獲得する

［授業全体の内容の概要］

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する
・幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1	保育における「言葉」とは　−幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容−
2	子どもの言葉の発達過程（1）　−言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋−
3	子どもの言葉の発達過程（2）　−書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉−
4	言葉を育む環境構成と援助（1）　−話したい、聞きたい意欲を生む援助−
5	言葉を育む環境構成と援助（2）　−生活に必要な言葉の習得を支える援助−
6	言葉を育む環境構成と援助（3）　−言葉のすれ違いやうまく伝わらないもどかしさへの援助−
7	言葉を豊かにする環境構成と援助（1）　−言葉の伝え合い、伝える、表現する、受け止める−
8	言葉を豊かにする環境構成と援助（2）　−文字などで伝える楽しさを生み出す援助−
9	子どもの言葉を豊かにする教材：児童文化財−絵本・紙芝居・素話・ペープサート・パネルシアター
１０	言葉に対する感覚を豊かにする実践：言葉遊び−しりとり・わらべ歌・言葉集め・なぞなぞ・数字
１１	子どもの言葉を育む保育の実際−保育実践もしくは模擬保育に向けての保育観察と教材研究−
１２	子どもの言葉を育む保育の構想−領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案の作成
１３	子どもの言葉を育む保育の実践・発表−保育実践もしくは模擬保育の実施・発表−
１４	子どもの言葉を育む保育の評価と改善−保育実践もしくは模擬保育の振り返り−
１５	まとめ：子どもの言葉を育み、豊かにする保育実践 −「言葉」をめぐる現代的課題と特別な配慮が必要な幼児への指導を踏まえた保育実践−

［使用テキスト・参考文献］

「幼児と言葉」「言葉指導法」馬見塚昭久／小倉直子　編著　ミネルヴァ書房
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
保育内容「表現」指導法Ⅰ		演習	鎌田　千佳
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年後期	必修（保）・必修（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の内容・方法に関する科目	授業への取り組み・学びの過程の評価(70%) 課題レポート（30%）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	

［授業の目的・ねらい］

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「表現」のねらいと内容について、背景となる専門領域と関連させて乳幼児の発達に即した具体的な表現活動の保育構想の基礎的な知識・技術の学びを通して、感性・創造性を身に付ける。

［授業全体の内容の概要］

乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、領域「表現」のねらい及び内容の理解を深める。子どもの発達に応じた遊び方や言葉がけ、遊びの展開の実技指導法、音楽表現とその必要性を学び、適切な援助ができる力を身に付ける。テーマに沿った表現活動の指導法を ICT を活用しながら協働学習のスタイルで学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

領域「表現」のねらい・内容を理解し、具体的な指導場面を想定した活動を構築することができる。
子どもの発達段階による「表現」の違いを理解し、説明することができる。
様々な表現に触れ、自身の感性を豊かにするとともに他者の表現を受け入れる評価の観点を持つ。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	授業ガイダンス、幼児教育の基本及び領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現の姿と関連づけることを通して理解する。
2	幼児の発達や学びの過程を理解し、表現活動において育みたい資質・能力について具体的に考える。
3	インクルーシブ保育における表現活動の可能性について考える。その理解と保育構想への活用を考える。
4	リズムで遊ぼう①リトミック活動の理解を深め、リズムと身体の基礎知識を学ぶ。
5	リズムで遊ぼう②身体を用いた音楽表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点を考える。
6	「幼児の音楽表現について」幼児期に求められる音楽表現について学ぶ。
7	乳幼児の音楽あそびについて、映像や実践を通して理解を深める。
8	他領域との関わりと表現活動の展開を構想し、指導上の留意点を理解する。
9	音であそぼう①身近な環境の中のモノや楽器の音を知る。表現活動を通して他者との共有と理解を学ぶ。
１０	音であそぼう②幼児の興味・関心を引き出す指導方法を構想する。(ICT 活用)
１１	総合表現としての劇遊び①指導案作成の構造を理解し、音楽的なねらいについて具体的に考える。
１２	総合表現としての劇遊び②具体的な保育を想定した指導場面での活用を考える。
１３	総合表現としての劇遊び③音楽的な表現活動を実践するために、グループで教材研究を深める（ICT 活用）
１４	総合表現としての劇遊び④グループで音楽的な表現活動の実践、振り返り、改善を試みる。(ICT 活用)
１５	音楽的な表現活動のまとめを発表し、保育の場における表現活動について考える。

［使用テキスト・参考文献］

乳幼児の音楽表現　日本赤ちゃん学会監修　小西行郎・志村洋子・今川恭子・坂井泰子編著　中央法規
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
教育課程・保育の計画と方法 （教育の方法及び技術を含む）		講義	新居　直美
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	1 学年後期	必修（保）・必修（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の内容・方法に関する科目	授業内容の理解度（授業内レポート・小試験 50%） 指導計画類の内容（20%）・提出物（30%） 授業態度が芳しくない場合減点の対象となる。
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
教育の基礎的理解に関する科目	

［授業の目的・ねらい］

教育課程や全体的な計画を『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に沿って学び、指導計画の作成と実施のために必要となる方法や技術、その評価を一元的に学ぶことにより、カリキュラム・マネジメントの考え方とその実行のための知識を習得する。

［授業全体の内容の概要］

本授業では、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の位置づけとそれらに準拠した教育・保育のあり方を学び、そこで示されている教育課程、全体的な計画における意義・目的について理解する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・カリキュラム・マネジメントの考え方を理解し、指導計画の作成とその評価のための具体的な方法や技術を習得する
・教育課程や全体的な計画を理解し、指導計画の作成プロセスを習得する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	「保育所保育指針」等における保育の目標と計画の考え方
2	保育におけるカリキュラムとは
3	子ども理解に基づく PDCA サイクルの循環
4	全体的な計画(教育課程)と指導計画の関係
5	長期的な指導計画の作成（0・1・2 歳児）
6	長期的な指導計画の作成（3 歳以上児）
7	短期的な指導計画の作成（0・1・2 歳児）
8	短期的な指導計画の作成（3 歳以上児）
9	指導計画の作成上の留意点事項（0・1・2 歳児）
１０	指導計画の作成上の留意点事項（3 歳以上児）
１１	指導計画の作成上の留意点事項（異年齢児）
１２	指導計画に基づく保育の柔軟な展開
１３	保育の記録と考察
１４	保育の評価と改善
１５	小学校との連携・接続について（幼児期の終わりまでに育って欲しい姿と要録の理解）

［使用テキスト・参考文献］

『保育の計画と評価　演習ブック』　松本峰雄　ミネルヴァ書房　　2019
『幼稚園教育要領』(平成 29 年 3 月告示　文部科学省)「保育所保育指針」(平成 29 年 3 月告示　厚生労働省)
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』　(平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
幼児理解の理論と方法		講義	植松　啓子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年後期	選択必須（保）・必須（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の対象の理解に関する科目	課題レポート（20%）・授業内容確認テスト（70%） グループ討議（10%）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	

［授業の目的・ねらい］

幼児を理解するためには、幼児の発達について多面的な理解が不可欠である。
・幼児自らの育ちを支援するための理解の視点と技法を身につける。
・幼児の遊び内容・保護者の心情に対する理解と対応について学ぶ。
・保育者としての基本的態度・環境としての自らの存在を理解し保育のあり方を深める。

［授業全体の内容の概要］

幼児期の教育は幼児一人ひとりの特性に応じながら発達課題に即した指導を行う。そのためには、適切な幼児理解と評価についての考え方、幼児に対する教師の姿勢、記録の取り方を学ぶ。また、実践や事例を用いてグループ討議をする。それらをすることで　一人ひとりの幼児の理解を保育の中で生かすことできることを学ぶ。
一人ひとりの幼児の内面を理解し信頼関係を築き発達に必要な遊びを幼児自ら獲得していけるように援助する力を授業の中で学ぶ

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

幼児理解の道筋や根拠について習得する。保育の基本と環境を通しての教育と子ども理解を学ぶ。
DVD 教材を活用し、グループ協議や各々が発表しながら学ぶ

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
１	授業ガイダンス・保育の基本と子ども理解、子ども理解から出発する保育
２	環境を通しての教育と子ども理解・子どもにとっての園生活・子どもと保育者、相互理解
３	子どもの発達する姿を捉える（発達するもの、特性、個と集団の関係、温かな集団）
４	集団の中での育ちあい（グループ討議）より良い保育をつくり出すために、活動の意味、発達の姿
５	一人ひとりにみる発達の姿（子どもの発達と遊び）僕の大事な泥だんご・泥だんご競争）
６	子どもを理解するための保育者の姿勢（肯定的に見る、事例から学ぶ）
７	事例（遊びが見つからずなんとなく過ごしているジンジ、僕にもオルゴールやらせて）
８	活動の意味を考えてみる、長い目で見る事例（友だちとかかわらないヒカルの変容、絵が描けない）
９	子ども理解のためのカセリングマインドとは（体験から生まれる言葉）
１０	3 歳児の発達課題を学ぶ DVD 教材「一人じめしたいの？それともおもいやり」を視聴して学ぶ
１１	絵本を通して幼児理解をする（とんことり）各々が読み込んでいく。グループ討議をする
１２	4 歳児の発達を学ぶ DVD 教材「あかりちゃんありがとう」を視聴して学ぶ
１３	幼児理解と保育カンファレンス・こどもの視座に立つ・何気ない話し合いのなかでの子ども理解
１４	5 歳児の発達課題を学ぶ DVD 教材「子ども会で人形劇をしよう、お客さんを呼ぼう」を視聴して学ぶ。
１５	まとめ・保育における幼児理解と評価・保育者の姿勢・妥当性や信頼性を高めるための工夫を学ぶ。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「子ども理解と保育実践」萌文書林・「幼児理解に基づいた評価」文部科学省/チャイルド社
幼稚園教育要領解説（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）保育所保育指針解説（平成 29 年３月告示 厚生労働省）幼保連携型認定こども園・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）

備考

定期テストは実施しない

実務経験
平成元年度・10・20・30 年度と時代の流れの中で幼稚園教育要領の内容がその都度、変わっていくことが多々あった。 しかし、一貫して文科省は変わらないこと、ゆるがないこととしては、子どもたちが環境を通して、遊びを通して、発達に応じて主体的にかかわることで学びにつながっていくことであると記載している。 それらを保育者として学んでいく学生に、市立幼稚園教諭、園長及び市幼児教育相談員として 38 年間の長い勤務と経験の中で、具体的な実践を通して話しながら授業を展開させていく。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
乳児保育Ⅰ		講義	齊藤　静枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年前期	必修(保)･選択(幼)

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の内容・方法に関する科目	授業内での確認小テスト（70%） 課題・レポート（30%）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
選択科目	

［授業の目的・ねらい］

乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割や、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制や乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

［授業全体の内容の概要］

乳児保育の意義や目的を踏まえ、保育所や乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状を学びながら、３歳未満児の発育・発達を理解する。３歳未満児の保育は遊びや生活の具体的場面の連続であり、その一つ一つに様々な発達的意味が複合的に含まれている。保育士等の役割は、毎日の活動の一つ一つがよりよいものとなるよう、環境を整え、必要な援助を行うことである。乳児保育の基本的な概念や実践方法を広く学びながら職員間の連携・協働及び保護者や関係機関との連携についても理解を深める。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割や、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制や乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷を学ぶ。
2	「乳児保育」とは何か、乳児保育の内容、役割、機能を理解する。
3	乳児保育の「養護と教育」を理解する。
4	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について学ぶ。
5	乳児保育の現状と様々な保育施設の保育と保育の一日を学ぶ。
6	保育所における乳児保育の一日を学び３歳未満児がどのように生活しているのかを理解する。
7	乳児保育の重要性と内容について学ぶ。
8	乳児保育のねらいと保育内容と保育士等の援助を学ぶ。
9	３歳未満児の発育・発達の様子を学ぶ。
１０	３歳未満児の発育・発達の様子とそれに関わる保育士等の援助や配慮を学ぶ。
１１	３歳未満児の対人関係の発達とそれに関わる保育士等の援助や配慮を学ぶ。
１２	３歳未満児の生活と遊びの環境について学ぶ。
１３	乳児保育における保育者間の連携や協働・保護者と地域との連携や協働について学ぶ。
１４	乳児保育の理解を深める。(確認テスト)
１５	乳児保育の振り返りとまとめ

［使用テキスト・参考文献］

乳児保育の基本　阿部和子　編著　（萌文書林）
保育所保育指針（平成２９年３月告示厚生労働省）
０歳～６歳子どもの発達と保育の本（ひかりのくに）

備考

定期テストは実施しない

実務経験
公立保育所において保育士（正職）として 40 年間勤務する内、クラス担任 30 年、園長、副園長として 10 年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
乳児保育Ⅱ		演習	齊藤　静枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	１単位	１年後期	必修(保)･選択(幼)

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の内容・方法に関する科目 幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分 選択科目	授業内での確認小テスト（70%） 課題・グループ活動（30%）

［授業の目的・ねらい］

３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
養護及び教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
上記を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

［授業全体の内容の概要］

「乳児保育Ⅰ」の学びを踏まえ、３歳未満児の発育・発達の理解を深め、それに関わる保育士の援助や配慮、発達を見据えた環境づくり等を学ぶ
３歳未満児の生活・遊びの中で、養護及び教育が一体となった保育実践がどのように行われているかを学ぶ。
乳児保育と保育の計画（乳児期からの見通しをもった全体的な計画の作成や長期、短期の指導計画、個別計画等を学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた保育士の援助や関わり、環境構成などの理解を深める。
養護及び教育が一体となった保育実践を具体的に理解する。
乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	乳児保育の基本を学ぶ(子どもと保育士等との関係の重要性)
2	子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて学ぶ。
3	発達過程に沿った対応の基本を学ぶ。
4	一人ひとりの子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて学ぶ。
5	乳児保育における家庭との連携について学ぶ。
6	集団生活における一日流れと保育者の援助・配慮を学ぶ。
7	子どもの生活や遊びを支える環境構成について学ぶ。
8	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための環境を学ぶ。
9	子どもの病気や健康支援について学ぶ。
１０	子どもの事故予防と安全への対応について学ぶ。
１１	0 歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について学ぶ。
１２	1，2 歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について学ぶ。
１３	乳児保育の指導計画と集団の指導計画について学ぶ。
１４	乳児保育の理解を深める。(確認テスト)
１５	乳児保育の実践の振り返りと発表

［使用テキスト・参考文献］

乳児保育の基本　阿部和子　編著　（萌文書林）
参考書・参考資料等　保育所保育指針
０歳～６歳子どもの発達と保育の本　　学研　河原紀子監修・執筆

備考

定期テストは実施しない

実務経験
公立保育所において保育士（正職）として 40 年間勤務する内、クラス担任 30 年、園長、副園長として 10 年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
子どもの健康と安全		演習	可児　幸恵
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	１単位	１年後期	必修（保）・選択（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の内容・方法に関する科目	確認試験（60%） 授業への取り組み・提出物（40%） 以上を総合的に評価する。
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
選択科目	

［授業の目的・ねらい］

「子どもの保健」で習得した基礎的知識を基に、実践を通して保育者としての態度・技能を身につけること。

［授業全体の内容の概要］

保育における保健活動の概要を理解し、子どもの健康の保持増進および健康問題への対応、感染対策、環境衛生、安全管理に関する幅広い知識と技能を獲得することを目指す。グループワークや演習形式を取り入れた学習では、学生同士が相互に協働する姿勢を重視し、共通の課題に向けて取り組む中で、個々の感受性や価値観、能力を共有し、共に発展させていく能力を支援する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

１．保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
２．保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。
３．子どもの体調不良・感染症等に対する適切な対応について、具体的に理解する。
４．保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。
５．子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数		
1	子どもの健康状態の評価①	健康状態の把握/乳幼児の生理機能測定
2	子どもの健康状態の評価②	乳幼児の発育評価と身体計測
3	衛生管理	施設環境と屋内外の衛生管理
4	事故防止と安全対策	子どもの事故の特徴、事故防止のための対策
5	危機管理と災害への備え	保育における危機管理と災害への備え、安全教育
6	体調不良時の対応	体調不良時の症状別手当ての方法
7	傷害時の応急手当	傷害時の応急処置の方法
8	心肺蘇生	乳幼児の心肺蘇生
9	感染症	感染症の集団発生の予防
１０	乳幼児の養護	保育における保健的対応、乳幼児の養護の方法
１１	乳幼児の歯の健康	乳幼児の歯の健康に必要な援助
１２	乳幼児の身体の清潔	乳幼児の身体の清潔に必要な援助
１３	配慮を要する子どもの対応	個別的配慮を要する子どもの対応/障害をもつ子どもの対応
１４	まとめ	講義の総復習と確認試験
１５	保健活動の計画・評価	保健活動の計画・実践・評価/保健活動における連携

［使用テキスト・参考文献］

小林美由紀 編著(2021)：授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全演習ノート第 2 版, 診断と治療社
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(2019)：厚生労働省、2018 年度改訂版
保育所における感染症対策ガイドライン(2018)：厚生労働省、2018 年度改訂版
教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン(2016)：内閣府・文部科学省・厚生労働省

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
保育原理		講義	實川 慎子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年前期	必修（保）・選択（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の本質・目的の理解に関する科目	授業内小試験、授業態度、授業の中で課す課題などから総合的に評価する。(授業態度 30%、小試験及び課題 70%)
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
選択科目	

［授業の目的・ねらい］

・保育の意義・目的及び法令・制度について理解する。
・保育所保育指針における保育の基本を理解する。
・保育の歴史的変遷及び現状と課題について理解する。

［授業全体の内容の概要］

・児童の最善の利益を考慮した保育、保育の社会的意義、保護者との協働などについて学び、保育の意義を理解する。
・養護と教育の一体性、環境を通して行う保育、発達過程に応じた保育とは何かを学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示す保育の基本となる考えについて理解する。
・生活と遊びを通して行う保育や、計画・実践・記録・評価・改善の過程の循環について学び、保育の内容と方法の基本について理解する。
・保育の歴史的変遷および現状と課題について考察する。
グループによる話し合いでは積極的に参加するとともに、他者の考えや意見に耳を傾け、自分の考えや理解を深めるようにする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・幼稚園・保育所・認定こども園等の保育の意義及び目的と、保育に関する法令及び制度を理解する。
・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される保育の基本及び保育の内容と方法の基本を理解する。
・保育の歴史的変遷と現状について理解し、課題を考察する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	授業ガイダンス・保育とは何か（保育の意義及び目的と保育に関する法令及び制度について）
2	保育の基盤としての子ども観（保育指針と保育の基本原則）
3	子ども理解から出発する保育（子どもの最善の利益と保育）
4	子どもが育つ環境の理解①物的環境・人的環境
5	子どもが育つ環境の理解②レッジョ・エミリアの幼児教育から学ぶ
6	保育内容・方法の原理①事例を通して考える（養護と教育の理解）
7	保育内容・方法の原理②保育実践の DVD 視聴
8	保育の計画と実践の原理
9	保育における健康・安全の原理及び多様な子どもと共に育つ保育
１０	保育の歴史に何を学ぶか
１１	保育者に求められるもの　（子ども家庭福祉と保育の目標）
１２	現代の子育てと子育て支援
１３	保育の現状と課題（子ども・子育て支援新制度を含む）
１４	学習内容の確認
１５	保育原理の振り返り・まとめ

［使用テキスト・参考文献］

保育原理(渡邉英則・高嶋景子他　編著）　ミネルヴァ書房）
最新保育小六法・資料集 2023（大豆生田啓友・三谷大紀　ミネルヴァ書房）

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
教育と社会（教育の理念・歴史・思想を含む）		講義	寺道　亮信
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年前期	必修（保）・必修（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の本質・目的の理解に関する科目	授業での取り組み（５０％） ミニレポート（５０％）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
教育の基礎的理解に関する科目	

［授業の目的・ねらい］

１．教育の基本的概念や理念について様々な角度から検討し、理解している。
２．教育に関する様々な思想や歴史について理解している。
３．学校教育に関する社会的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関する課題を理解している。
４．学校と地域の連携と学校安全への対応に関する課題を理解している。

［授業全体の内容の概要］

・教育の基本的概念や理念について学び、それらを比較しながら、言葉に忠実に思考する練習を積む。
・教育に関する様々な思想や歴史について学び、それぞれの特質を理解したうえで、現代の教育を捉えなおす。
・学校教育に関する社会的状況について理解し、生じる課題とその対応としての教育政策の動向を理解する。
・学校と地域の連携、教育現場の危機管理に関する事柄を学び、実際の指導を想像して自発的に考える。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・教育の基本的概念や理念、思想、歴史、地域連携についての理解を深め、実際の指導に活かせるようになる。
・身の回りの様々な出来事について関心を持ち、自ら調べ、考える習慣をつける。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	教育とは何か―哲学することを通して―
2	教育の目的
3	家族と社会による教育の歴史
4	教育をめぐる思想
5	近代教育思想の始まり
6	近代教育制度の成立と展開
7	新教育運動の思想と実践
8	歴史的観点からみる現代社会の教育的課題
9	学校をめぐる近年の状況変化・ジェンダー論
１０	子どもの生活の変化と指導上の課題
１１	教育政策の動向
１２	諸外国の教育事情と教育改革の動向
１３	学校と地域の連携と共同の意義・方法・経緯
１４	学校における危機管理と安全
１５	まとめとふり返り―教師として、保育者として―

［使用テキスト・参考文献］

参考書・参考資料等：授業内で適宜提示する。
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）

備考

定期テストは実施しない。
講義内容や順番は、受講生の興味関心や討論によるフィードバックを基に柔軟に組み替える。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
子ども家庭福祉		講義	助川　夏菜・初谷　千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年前期	必修（保）・選択（幼）
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育の本質・目的の理解に関する科目		課題レポート（50%）授業内確認小テスト（50%）	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			
選択科目			

［授業の目的・ねらい］

子どもの育ちや家庭への支援の充実のために、子ども家庭福祉の理念や枠組み、サービスの体系について学び、保育士としての専門性を活かした支援ができるよう、実践感覚を習得することを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

子ども家庭福祉について、子どもの権利擁護の視点から現在の子ども家庭福祉の現状や実践のありようについて理解し、子ども家庭福祉の動向と展望を学習する。また、子ども家庭福祉の推進方法、保育、幼児教育、子育て支援、児童虐待、社会的養護、障害児の福祉、子どもの貧困、社会的養護について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

保育士として子どもの最善の利益を図るため、子どもの権利を護る取り組みの支援や、そのためのネットワークの仕組みと実際を理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	子ども家庭福祉の理念と、子ども・家庭を取り巻く社会について学ぶ。
2	子どもの権利について考える。
3	海外で子ども家庭福祉が成立した背景を学ぶ。
4	日本で子ども家庭福祉が成立した背景を学ぶ。
5	子ども家庭福祉の法体系（児童福祉法）について学ぶ。
6	児童相談所の仕組みについて学ぶ。
7	児童福祉施設の措置制度と利用契約制度について学ぶ。
8	子ども家庭福祉に関わる専門職について学ぶ。
9	地域の子育て支援施策について学ぶ。
１０	社会的養護・児童虐待・DV について学ぶ。
１１	障害児の福祉・少年非行について学ぶ。
１２	子どもの貧困対策とひとり親家庭への支援を学ぶ。
１３	子どもの権利擁護について、実践場面を想定し考える。
１４	地域における連携・協働とネットワークについて学ぶ。授業のまとめ
１５	今後の課題と展望について学ぶ。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：みらい×子どもの福祉ブックス子ども家庭福祉（2020）喜多一憲監修・堀場純也編集　みらい
参考書・参考資料等：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（2018）

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実習）	授業担当者
社会福祉		講義	靜間　宏治
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	２単位	１年前期	必修（保育）・選択（幼）

保育士養成課程による系列（告示等による教科目名）	[単位認定の方法及び基準]（試験やレポートの評価基準など）
保育の本質・目的の理解に関する科目	授業内確認テスト 70% 提出物 20% 授業参加態度 10%
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
選択科目	

［授業の目的・ねらい］

現代社会における社会福祉の意義、その理念や制度・実施体制を理解し、子どもや保護者への関り・支援を学びながら、社会福祉における課題を考える。

［授業全体の内容の概要］

社会福祉制度及び対人援助を学びながら、保育士・幼稚園教諭としての子どもや保護者に関わる視点、態度を明らかにしていきたい。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

社会福祉専門職である、保育士（幼稚園教諭）の役割とその意味を明確にし、認識できることを目的とする。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	オリエンテーション、社会福祉と人間理解①（ノーマライゼーションの思想）
2	社会福祉と人間理解②（共生社会と障がいの理解）
3	視覚教材学習（この子らを世の光に）
4	社会福祉の法律と制度
5	社会福祉の実施体制
6	社会福祉施設の理解
7	社会福祉の専門職と実施機関
8	社会福祉における相談援助①（意義と機能）
9	社会福祉における相談援助②（対象と過程　ソーシャルワークの専門性）
１０	社会福祉における相談援助③（方法と技術　利用者理解の視点）
１１	利用者保護の仕組み（成年後見制度と日常生活自立支援事業）
１２	視覚教材学習（他者を援助するとは）
１３	地域福祉の可能性（在宅福祉・地域福祉の推進）
１４	少子高齢社会における子育て支援
１５	まとめと「福祉の哲学」

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「新・社会福祉原論」～現代社会福祉の視点と社会福祉援助の可能性～　足立　叡　編著
参考文献：保育所保育指針　教育・保育要綱　「福祉の哲学」阿部志郎著

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
社会的養護Ⅰ		講義	初谷　千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年後期	必修（保）・選択（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の本質・目的の理解に関する科目	授業内確認小テスト（45%） 授業内レポート（10%）課題（45%）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
選択科目	

［授業の目的・ねらい］

子どもとその家庭における課題の多様化、複雑化に対応するため、理念や制度等の基礎的事項の理解や関係機関との連携、援助の方法を習得し、実践力を身につけることを目的とする。主に以下の 5 点についての理解を深める。
1.現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
2.子どもの権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
3.社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
4.社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
5.社会的養護の現状と課題について理解する。

［授業全体の内容の概要］

本授業では、まず社会的養護とは何か、その意義について理解を深める。次に、子どもの権利擁護としての社会的養護と、家庭への支援のあり方を学ぶために、現代社会の実態を把握する。そして、理念や制度、仕組みを学ぶことにより、子どもの実態に結びつけた自立支援に繋げられるような力を養う。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

理念や制度、自立支援、権利擁護の仕組みを理解し、社会的養護の保育士としての専門性や倫理観を醸成する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	社会的養護とは何か、基本理念や用語について学ぶ。
2	社会的養護の歴史的変遷から、現代の子ども観を学ぶ。（イギリス・アメリカ・日本）
3	子どもの人権擁護とその課題について学ぶ。
4	社会的養護の基本原則を、児童福祉法より学ぶ。
5	社会的養護における保育士のケアと倫理・責務を理解する。
6	社会的養護の制度と法体系を学ぶ。（措置制度の考え方）
7	社会的養護の基本的なしくみと実施体系を学ぶ。
8	社会的養護におけるソーシャルワークの意義やプロセスを理解する。
9	社会的養護の対象と支援のあり方について、児童養護施設職員の講和を通し理解を深める。
１０	家庭養護と施設養護の共通点・相違点から、特徴や課題を学ぶ。
１１	社会的養護に係る専門職について、調べ学習や発表を通し理解を深める。
１２	新しい社会的養育ビジョンの内容を学ぶ。
１３	施設の運営管理の現状と課題、働きやすい環境づくりについて学ぶ。
１４	被措置児童等の虐待防止の現状と要因・課題を調べ、理解を深める。（授業内確認小テスト実施）
１５	社会的養護関係施設と地域との関わりや今後の課題を学ぶ。

［使用テキスト・参考文献］

児童育成協会、相澤仁・林浩康（2023）新基本保育シリーズ　社会的養護Ⅰ第２版　中央法規
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領（2018）

備考

定期テストは実施しない

実務経験
保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
保育者論		講義	實川慎子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年後期	必修（保）・選択（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の本質・目的の理解に関する科目	授業態度（30%） 確認小試験および課題（70%）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
選択科目	

［授業の目的・ねらい］

・保育者の役割と倫理及び保育士の制度的位置づけを理解する。
・保育士の専門性と保育者の連携・協働を理解する。
・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

［授業全体の内容の概要］

・幼稚園や保育所、認定こども園における保育者の役割と倫理、職業の特徴や制度的位置づけについて学ぶ。養護と教育、保育者の資質・能力や知識・技術及び判断について、保育事例を通して考えながら、保育者の専門性について考察する。
・社会的ニーズに目を向けながら、家庭や地域、専門機関との連携・協働及び学び続けることの必要性について学ぶ。
・グループによる話し合いでは積極的に参加するとともに、他者の考えや意見に耳を傾け、自分の考えや理解を深めるようにする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・保育者の役割と倫理、職業的特徴及び制度的位置づけを理解する。
・保育者の専門性として、子どもに応じた保育の内容を理解する。
・家庭や地域、専門機関との連携・協働や保育者の専門的成長と研修の必要性を理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	授業ガイダンス・「保育者になる」ということ（保育者の役割と倫理及び制度的位置づけ）
2	保育者の一日①保育所（一日のスタート～給食）
3	保育者の一日②保育所（午睡～一日の終わりに）
4	幼稚園・認定こども園における保育者の役割と専門性
5	子どもの思いや育ちを理解する仕事
6	子どもと一緒に心と体を動かす仕事①遊びを支える５つの役割（養護と教育を含む）
7	子どもと一緒に心と体を動かす仕事②映像を見て保育者の仕事を考える
8	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事
9	保護者や家庭と一緒に歩む仕事①在園児の保護者への支援と専門機関との連携・協働
１０	保護者や家庭と一緒に歩む仕事②地域における子育て支援
１１	学び合う保育者①語り合い・学び合うこと（保育士のキャリア形成を含む）
１２	学び合う保育者②園（組織）として学び合う
１３	保育者の専門性って何だろう　（保育の計画と省察・評価を含む）
１４	学習内容の確認
１５	保育者論の振り返り・まとめ

［使用テキスト・参考文献］

保育者論（汐見稔幸・大豆生田啓友(編) ミネルヴァ書房）
最新保育小六法・資料集 2023（大豆生田啓友・三谷大紀　ミネルヴァ書房）

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
教師論		講義	柴田　茂樹
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年後期	選択必修（保）・必修（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の本質・目的の理解に関する科目 幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分 教育の基礎的理解に関する科目	ミニレポート・小テスト 20% グループ課題 20% 授業やグループワークへの参加意欲 60%

［授業の目的・ねらい］

・保育教諭としてのあり方について、実践現場の事例学習を通じて人間性を育む
・世界の教育、社会と環境の変容、専門基礎知識を学び、保育者としての判断力を習得する

［授業全体の内容の概要］

「生きる力」を育む上で大切なことは、幼児と保育者との間の肯定的な信頼関係が形成されていることが重要である。「保育者としてどうあるべきか」「幼児とどのように関わるのか」日々研究と実践を積み重ねていくことが保育者の基本となる。本授業では世界の教育、これからの教育、子ども達を取り巻く社会環境の変容に触れながら教育・保育の課題や現状に言及していく
そのような過程を経て、保育者の実践記録及びケーススタディに触れ、各自が目指す保育者像を描く一助としたい。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・保育教諭としてのマナー・倫理心得及び保育職の専門性を体系的に理解し自己統制を高める
・保育教諭として「生きていく目的」の土台を確保する

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1	ガイダンス　～教師論とは～
2	保育教諭とは①　～保育教諭としての自己統制～
3	保育教諭とは②　～教育・保育力を考える～
4	２１世紀の保育教諭の役割・生きる力の基礎を考える（映像）　～日本・欧米・アフリカを題材にして～
5	期待される保育教諭像　～知る・伝える・心がける・実行する～
6	子どもの心と身体の発達　～エリクソンの発達段階から考える～
7	子どもと共に過ごす保育教諭の生活を基に①　～子どもの育つ生活と共に環境を考える～
8	子どもと共に過ごす保育教諭の生活を基に②　～あそびの発達と保育の連続性を考える～
9	子どもとの関わり①　～子どもを受容することとは～
１０	子どもとの関わり②　～発達年齢に沿った保育者の関わりとは～
１１	グループワーク①　私たちが考える幼稚園・保育園　～保育教諭としての自分の役割（デザイン）～
１２	グループワーク②　私たちが考える幼稚園・保育園　～保育教諭としての自分の役割（発表・総括）～
１３	グループワーク①　私たちが考える幼稚園・保育園　～保育教諭としての自分の役割（映像・討論）～
１４	まとめ
１５	伝統的に引き継がれる教師・保育教諭のあり方（討論総括）

［使用テキスト・参考文献］

保育所保育指針（平成２年施行厚生労働省）　幼稚園教育要領（平成２９年告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）、
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示内閣府、文部科学省、厚生労働省）
教師論　米山弘　玉川大学出版会

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
保育の心理学		講義	新村　信貴
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年前期	必修(保)・必修（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の対象の理解に関する科目	学習意欲及び内容の理解度による。これらについて、各回実施の小レポート（5%×15 回＝75%）と学期末レポート(25%)を総合し、評価する。
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
教育の基礎的理解に関する科目	

［授業の目的・ねらい］

保育に関わる心理学の基礎知識を学ぶことで、子どもの発達及び学びの特性及び過程について理解する。これらを通じ、子どもの発達を捉える視点を理解し、養護と教育の一体性、並びに発達に即した援助のための基本的な子どもへの理解を深め、保育における環境、体験、他者との相互的関わりの意義について理解する。

［授業全体の内容の概要］

講義形式を基本としながら、保育に関わる心理学の基礎知識を学ぶ。主な内容は生涯発達の理論、学習(学び)についての理論である。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

①子どもの発達を捉える視点を理解する。②養護と教育の一体性、並びに発達に即した援助のための基本的な子どもへの理解を深める。③保育における環境、体験、他者との相互的関わりの意義について理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	オリエンテーション：　「保育の心理学で何を学ぶ？」
2	子ども観と保育観：　「子どもって、どんな存在？」「保育ってどんなイメージ？」
3	身体と運動機能の発達：　「からだの発達を学ぼう」
4	性格の発達①：　「性格ってそもそも何だろう？」
5	性格の発達②：　「その人らしさの元になるのは、遺伝？環境？」
6	知能の発達①：　「知能ってそもそも何だろう？」
7	知能の発達②：　「子どもの知能の発達を学ぼう」
8	社会情動的発達①：　「子どもが育っていく中で、周囲の大人が大切にしたいこと　―愛着―」
9	社会情動的発達②：　「コミュニケーション・言葉の発達のために大切なことは？」
１０	社会情動的発達③：　「感情の発達を学ぼう」
１１	学習(学び)に関する理論①：　「学習(学び)って何だろう？」
１２	学習(学び)に関する理論②：　「子どもを主体にして、学習(学び)をとらえ直そう」
１３	生涯発達と発達課題①：　「人が子どもの頃に取り組む、人生の課題」
１４	生涯発達と発達課題②：　「人が大人になるとき、なったときに取り組む、人生の課題」
１５	まとめ　「何故、保育者は発達を理解している必要があるのだろう？」

［使用テキスト・参考文献］

遠藤利彦(2017).赤ちゃんの発達とアタッチメント 乳児保育で大切にしたいこと.ひとなる出版.

備考

・定期テストは実施しない。
・各回の順序や内容は、各回の小レポートから見た受講生の関心や理解度に応じて、若干変更する場合がある。
・体験的に心理学を学ぶ契機として、受講生の自己理解の一助となる心理テストなどを教材として提示する場合があるが、これへの取り組みはあくまで任意である。
・受講生同士で、お互いに考えを共有する方法として、各自がスマートフォン端末からコメントを入力し、受講生全体でそれの閲覧が可能になる、web サイトを使用する場合がある(受講生に費用負担は一切ない)。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
子どもの理解と援助		演習	新村　信貴
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	１単位	１年後期	必修（保）・選択（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の対象の理解に関する科目	学習意欲及び内容の理解度による。これらについて、各回実施の小レポート（5%×15 回＝75%）と学期末レポート(25%)を総合し、評価する。
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
選択科目	

［授業の目的・ねらい］

実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義及び、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解し、子ども理解の方法とそれに基づく態度と援助について理解する。

［授業全体の内容の概要］

養護と教育の一体的展開についての基礎的な知識の学習を踏まえながら、体験的な学習を随所に取り入れ、保育現場において、子どもを理解し、発達を援助する具体的な方法について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

①実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。②子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。③具体的な子どもの理解の方法とそれに基づく態度と援助を身に付ける。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	オリエンテーション：　「子ども理解は何故、必要？」
2	養護と教育の一体的展開・共感的理解：　「子どもに共感するって、どういうことだろう？」
3	子どもの生活や遊び：　「遊びを通じた学びって、どういうこと？」
4	環境の理解と構成：　「遊びを通じた学びのために大切なこと」
5	人的環境としての保育者：　「子どもにとって、先生がいる意味はこんなに沢山」
6	発達の課題に応じた援助：　「こんなときどうしたらいい？を考えていくためのヒント」
7	集団における経験と育ち、葛藤やつまずき：　「つまずきは、学び・発達のチャンス」
8	環境の変化や移行：　「環境が変わるとき、子どもの心に何が起きる？」
9	観察・記録・評価・省察：　「何故、記録を書くことが大切なの？」
１０	職員間の対話：　「何故、保育者同士のコミュニケーションが大切なの？」
１１	保護者との情報の共有：　「保護者と関わる中で、大切にしたいこと」
１２	特別な配慮を要する子どもの理解と援助①：　「発達障害について学ぼう」
１３	特別な配慮を要する子どもの理解と援助②：　「多様なニーズについて学ぼう」
１４	発達の連続性と就学への支援：　「乳幼児期だからこそ大切にしたいこと・小学校入学に向けて」
１５	まとめ：　「何が正解かが分からない中で、大切にしたいこと」

［使用テキスト・参考文献］

藪中征代・玉瀬友美(編著)(2020). 子どもの理解と援助 子どもの育ちと学びの理解と保育実践. 萌文書林.

備考

・定期テストは実施しない。
・各回の順序や内容は、各回の小レポートから見た受講生の関心や理解度に応じて、若干変更する場合がある。
・受講生同士で、お互いに考えを共有する方法として、各自がスマートフォン端末からコメントを入力し、受講生全体でそれの閲覧が可能になる、web サイトを使用する場合がある(受講生に費用負担は一切ない)。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
子どもの保健		講義	可児　幸恵
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１学年	必修(保)・選択（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の対象の理解に関する科目	授業内確認試験(60%) 授業への取り組み・提出物（40%） 以上より、総合的に評価する。
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
選択科目	

［授業の目的・ねらい］

小児保健に関する基礎的知識を習得することを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

保育における保健活動の重要性を理解し、子どもに対する包括的な理解や健康、健康問題、養護に関する幅広い理解を獲得することを目指す。講義形式の学習では、学生自身が主体的に考えて学ぶ姿勢を重視し、個々の感受性や価値観、能力、目標に合わせて発展させていく能力を支援する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
２．子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
３．子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
４．子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での 適切な対応について理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数		
1	子どもの保健の意義	保健活動の意義と目的/母子保健の意義
2	子どもの健康と保健	子どもの出生/現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
3	子どもの発育・発達①	子どもの運動機能の発達と評価
4	子どもの発育・発達②	子どもの精神機能の発達と評価
5	子どもの発育・発達③	子どもの生理機能の発達と評価
6	健康観察	子どもの健康状態の観察/体調不良時の把握
7	感染症と予防接種	保育で予防すべき感染症/感染予防対策/予防接種の目的と種類
8	子どもの病気①	アレルギー疾患の特徴と適切な対応
9	子どもの病気②	呼吸器、消化器、循環器、泌尿器、筋骨格器、皮膚
１０	子どもの病気③	代謝内分泌、血液腫瘍、神経、感覚器
１１	子どもの病気④・新生児	精神疾患、発達障害、新生児の特徴と異常、用語
１２	子どもの虐待	地域における子どもの保健活動/子どもの虐待防止
１３	家族支援	保護者との情報共有と家族の支援
１４	まとめ	講義の総復習と確認試験
１５	健康診断と連携	妊婦検診、乳幼児健診、学校健診

［使用テキスト・参考文献］

小林美由紀 編著(2021)：授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト第 2 版, 診断と治療社
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 30 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）. 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(2019)：厚生労働省、2018 年度改訂版
保育所における感染症対策ガイドライン(2018)：厚生労働省

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
子どもの食と栄養Ⅰ		演習	鈴木　一子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	１単位	１年前期	必修（保）・選択（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の対象の理解に関する科目	課題提出（20%）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	受講姿勢（10%）
選択科目	授業内容確認テスト（70%）

［授業の目的・ねらい］

・健康な生活の基本としての食生活の意義や食品・栄養に関する基本的知識を習得する。
・子どもの各ライフステージにおける発育・発達と食と栄養のあり方について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

・子どもの心身の健康は食生活とともにあり、毎日の食事により健康な体も心もつくられていることを学ぶ。近年の社会情勢の変化が保護者の健康観や健康意識を変え、健康問題に影響している実態を知り、健全な食生活の確立に向けた支援が求められていることを理解する。
・食品・栄養に関する基本的知識を理解し、各ライフステージ（妊娠期、新生時期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、老人期）における発育・発達、栄養の特性を理解する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

１健康な生活の基本としての食生活の意義や食品・栄養に関する基本的知識を理解する。
２各ライフステージにおける発育・発達、食と栄養の関わりが深いことを理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1	子どもの心身の健康と食生活の意義。子どもの食生活の現状と課題
2	栄養に関する基本的概念と食事摂取基準
3	栄養に関する基本的知識と摂り方（１）炭水化物、脂質、たんぱく質
4	栄養に関する基本的知識と摂り方（２）ミネラル、ビタミン、食べ物の消化と吸収
5	献立作成と調理の基本
6	衛生管理。子どもの発育・発達の特徴。栄養状態による発育・発達の評価
7	胎児期（妊娠期）の食生活
8	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（１）乳汁栄養
9	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（２）離乳
１０	調理実習（離乳食）
１１	幼児期の心身の発達と食生活（１）心身の発達と特徴
１２	幼児期の心身の発達と食生活（２）食生活の特徴と問題点
１３	学童期の心身の特徴。食生活の特徴と問題点。学校給食
１４	まとめ
１５	生涯発達と食生活。学習の振り返り

［使用テキスト・参考文献］

子どもの食と栄養（食生活の基礎を築くために）飯塚美和子他２名編集。ビジュアル食品成分表（大修館書店）
幼稚園教育課程（平成 29 年 3 月　告示文部科学省）保育所保育指針（平成 29 年 3 月　告示厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示内閣府、文部科学省、厚生労働省）

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
教育心理学		講義	田中　道弘
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年後期	選択必修（保）・必修（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
保育の対象の理解に関する科目	学習意欲及び内容の理解度による。これらについては、授業内での小テスト(60%)、課題レポート(30%)、受講態度（10%)、以上を総合的に評価する。
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
教育の基礎的理解に関する科目	

［授業の目的・ねらい］

教育心理学は、教育実践に活かすことを目的とした心理学である。教育対象は、発達する存在と、学習する存在である。このような視点から、教育心理学は、発達心理学と学習心理学を中心に、教育現場で求められる実践的な問題解決や、効果的な学習理論について学んでいく。

［授業全体の内容の概要］

初回において教育心理学という学問領域について説明する。2 回目以降では、乳幼児期に限定せず、発達心理学の領域として「心」「言語・思考・記憶」「知的能力」「自己意識」「社会性」などを、学習心理学の領域として「学習理論」や「学校現場」「動機づけ」「パーソナリティ」「学校不適応」「発達障害」「教育評価」などについて学んでいく。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・「心」「言語・思考・記憶」「知的能力」「自己意識」「社会性」などの発達に関わる基礎知識を理解する。
・「学習理論」や「学校現場」「動機づけ」「パーソナリティ」「学校不適応」「発達障害」「教育評価」の基礎知識を理解する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	授業ガイダンス：教育心理学とは
2	心の発達①：遺伝か環境か
3	心の発達②：初期経験の重要性（インプリンティング、ヘッドスタート計画）
4	言語・思考・記憶①：言語の発達
5	言語・思考・記憶②：思考の発達
6	言語・思考・記憶③：記憶の発達
7	知的能力の発達：知能とは
8	自己意識の発達：自己形成、可能自己、自尊感情（心の健康）
9	社会性の発達：向社会行動、道徳性の発達、視点取得
１０	学習
１１	学校教育における学習
１２	動機づけ：やる気と無気力
１３	パーソナリティ：性格の種類や捉え方
１４	学校不適応・発達障害
１５	教育評価

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：　榎本博明（2021）．わかりやすい教育心理学　サイエンス社
参考文献：　高櫻綾子（編）（2021）．子どもの育ちを考える教育心理学、その他、適宜紹介する。

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実習）	授業担当者
教育実習		実習	沖田　健次・新居　直美
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
実習２０日	５単位	１年次・２年次	必修（幼）

保育士養成課程による系列（告示等による教科目名）	［単位認定の方法及び基準］（試験やレポートの評価基準など）
教育実習と総合演習	実習園の評価点［実習態度・指導案・日誌等］を（80％）実習に関するその他提出物（10％）事前・事後指導の学習参加態度（10％）を総合して評価する。うち 60％以上を合格とし、実習を全うできない場合は単位認定しない。
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
教育実践に関する科目	

［授業の目的・ねらい］

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。そこで、一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。また、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することで、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等についての理解をさらに深めていく。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育の目的、意義さらに幼稚園教諭の役割を実際の幼稚園現場の体験から学び、幼児期にふさわしい保育の展開がいかなるものであるのかを理解する。１年次は、附属幼稚園での実習にて、ＩＣＴを活用した観察・参加実習（６日間）、２年次は、参加・部分・責任実習（１４日間）を通して、幼稚園教育の内容の理解を深め、保育者に必要な基礎的技術を保育実践を通して身に付けることが望まれる。保育実践には子ども達の実態等を踏まえた適切な指導案を作成する必要である。そして、日々の保育記録を作成し、振り返ることで新たな発見（気づき）を得ることが、保育者として必要な知識と技能の習得の基となる。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等についての向上を図る。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

【１年次：通年】
**　附属こども園における観察・参加実習　（６日間）**
実習①：附属こども園にて観察実習（幼稚園の生活と保育の流れを知る。）
実習②：附属こども園にて観察実習（子どもの発達段階と保育者の役割を知る。）
実習③：附属こども園にて観察実習（子どもの発達段階と子どもの姿。）
実習④：附属こども園にて参加実習
実習⑤⑥：附属こども園にて観察・参加・部分実習（保育活動の計画及びその実践）
※１年次の教育実習（６日間）の事前・事後指導は教育実習指導Ⅰ（1 年次通年）にて行う。

【２年次：前期】
幼稚園及び幼保連携型認定こども園における観察・参加・部分・責任実習（１４日間）
実習⑦～⑳：実習園における保育の実際（観察・参加・部分・責任実習）
※２年次の教育実習（１４日間）の事前・事後指導は教育実習指導Ⅱ（２年次前期）にて行う。

［使用テキスト・参考文献］

大元千種著『実習の日誌と指導案　サポートブック』ナツメ社
横山洋子著『生活とあそびから見る「１０の姿」』ナツメ社
文部科学省『幼稚園教育要領解説』
その他、授業内にて適宜、資料等配布する。

備考

定期テストは実施しない
教育実習には事前事後指導を含む（１年次・教育実習指導Ⅰ）（２年次・教育実習指導Ⅱ）

実務経験〔沖田〕
幼保連携型認定こども園（副園長）、幼稚園（園長）としての勤務経験を活かして、幼児教育の目的と子どもの実態を捉えた保育日誌の作成、子ども達の能動的な活動の展開を促す指導案の作成、そして、教育実習に臨む目的とその心構えについて指導する。

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実習）	授業担当者
教育実習指導Ⅰ		演習	沖田　健次・新居　直美
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
３０回	教育実習に含む	１年次・２年次	必修（幼）

保育士養成課程による系列（告示等による教科目名）	［単位認定の方法及び基準］（試験やレポートの評価基準など）
その他	授業内提出物（40%）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	実習実施における記録等の提出物（40%）
	発表等の学習参加の態度（20%）

［授業の目的・ねらい］

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。そこで、教育実習に実施に必要な知識・技術の習得をとおして、実習の観点、日誌の記録の方法を学習し、実際の計画立案につながる実習課題を明確にする。この経験を２年次の教育実習へと活かしていくことが、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等への理解を深めていくことにつなげる。

［授業全体の内容の概要］

教育実習の意義や目的を理解し、これまでに学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等の保育を実践するために必要な、知識・技術の習得をとおして、実習の観点、日誌の記録の方法を学習し、実際の計画立案につながる教育実習に向けた課題を明確する。そして、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚し、意欲的に教育実習に参加することで、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等ついての理解を深めていく。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等についての向上を図る。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1	第１章　教育実習の概要　「幼稚園ってなぁに」　・附属園実習グループ分け
2	１年次の教育実習について　・実習遵守事項の確認　・自己紹介の名札制作について
3	第２章　幼稚園の一日の流れ・幼稚園の実習に向けて　・教育実習園の選定と手続き①
4	観察実習①事前指導Ⅰ　・観察実習の概要と保育観察の観点※1
5	観察実習①事前指導Ⅱ　・ＩＣＴを活用した保育観察と記録の方法※1
6	観察実習①の事後指導　・観察と記録からエピソードを抽出（保育ドキュメンテーション）※1
7	観察実習①の事後指導　・保育ドキュメンテーションの発表※1
8	幼児教育で育みたい「資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」
9	教育実習園の選定と手続き②
１０	観察実習②の事前指導Ⅰ　・観察実習の概要と保育観察の観点※1
１１	観察実習②の事前指導Ⅱ　・ＩＣＴを活用した保育観察と記録の観点※1
１２	観察実習②の事後指導　・観察と記録からエピソードを抽出（保育記録動画の作成）※1
１３	観察実習②の事後指導　・保育記録動画の発表※1
１４	部分・責任実習・指導案の立案の実際①
１５	観察実習③の事前指導Ⅰ　・観察実習の概要と保育観察の観点※1

１６	観察実習③の事前指導Ⅱ　・ＩＣＴを活用した保育観察と記録の観点※1
１７	観察実習③の事後指導　・観察と記録からエピソードを抽出（保育記録動画の作成）※1
１８	観察実習③の事後指導　・保育記録動画の発表※1
１９	第３章　教育実習の指導案①
２０	第３章　教育実習の指導案②
２１	第４章　教育実習の日誌①
２２	教育実習④（観察・参加）事前指導Ⅰ・活動の内容及び使用教材等の確認※1
２３	教育実習④（観察・参加）事前指導Ⅱ・活動の内容及び使用教材等の確認※1
２４	教育実習④（観察・参加）事後指導・実習の振り返り※1 第４章　教育実習の日誌②
２５	教育実習⑤⑥（観察・参加）の準備①（実践活動等の立案等）
２６	教育実習⑤⑥（観察・参加）の準備②（指導計画案の作成）
２７	教育実習⑤⑥（観察・参加）の準備③（指導計画案の作成）
２８	教育実習⑤⑥（観察・参加）の準備④（指導計画案の作成）
２９	教育実習⑤⑥（観察・参加）の事前指導※1・保育活動の内容及び使用教材等の確認
３０	教育実習⑤⑥（観察・参加）の事後指導※1　・実習を終えての振り返りと次年度の課題

［使用テキスト・参考文献］

大元　千種著　『実習の日誌と指導案　サポートブック』ナツメ社

横山　洋子著　『生活とあそびから見る「10 の姿」まるわかりＢＯＯＫ』　ナツメ社

文部科学省『幼稚園教育要領解説』

その他、授業内にて適宜、資料等を配布する。

備考

15 回×2（前期：15 回・後期：15 回）計 30 回を通年にて実施する

※１　本科目の中で１年次教育実習の事前・事後指導を行う

定期テストは実施しない。

教育実習５単位の中の事前、事後指導を含む。

実務経験〔沖田〕

幼保連携型認定こども園（副園長）、幼稚園（園長）としての勤務経験を活かして、幼児教育の目的と子どもの実態を捉えた保育日誌の作成、子ども達の能動的な活動の展開を促す指導案の作成、そして、教育実習に臨む目的とその心構えについて指導する。

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
情報処理		講義	田中　道弘
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年前期	必修（保）・必修（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
教養科目	授業課題（60%） リアクションペーパー（40%）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目	

［授業の目的・ねらい］

近年の保育園や幼稚園などでは、子どもの活動を写真や動画、音声、文字などで視覚的に記録する保育ドキュメンテーションを作成する機会が増えています。またクラスだよりを作成するため Word や Excel を使ってのグラフの作成や表計算なども必要です。PowerPoint を利用する機会も増えているので、基本操作を学びます。また、メールの作成、個人情報の取り扱いや著作権などのネットマナーについても学びます。

［授業全体の内容の概要］

子どもの活動を写真や動画、音声、文字などで視覚的に記録する保育ドキュメンテーションを作成するため、iPad を使用した動画や写真の撮り方、編集方法などを学びます。また、iPad を利用した Word での文章の作成方法、Excel での表計算やグラフの作成方法、PowerPoint や Outlook の使用方法などを学びます。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

iPad の基本操作（キーボードの使い方、データの管理等）ができる。さらに iPad を使用して動画や写真を撮り、それらを編集することができる。iPad を使用した Word での文章作成、Excel により表計算やグラフの作成ができる。PowerPoint を使用したプレゼンテーション資料の作成とプレゼンテーションができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	導入及び iPad の基本操作(1)　Microsoft365 のサインインとその活用方法
2	iPad 版 MicrosoftWord の使用方法その１
3	iPad の基本操作(2)写真を撮る。Word との連携
4	個人情報・知的財産権（著作権等）　（課題提出）
5	iPad の基本操作(3) 動画を撮り、保存する
6	iPad の基本操作(4) 動画を編集する（字幕の作成・BGM をつける）
7	Outlook の使い方：メールマナー
8	情報の信頼性と倫理（フェイクニュース、情報検索、SNS の問題）　（課題提出）
9	iPad 版 MicrosoftWord の使用方法その２　挿入、レイアウトの設定
１０	iPad 版 MicrosoftWord の使用方法その３　画像の取り込みと編集　（課題提出）
１１	iPad 版 MicrosoftExcel の使用方法その１　表の作成と表計算１
１２	iPad 版 MicrosoftExcel の使用方法その２　表の作成と表計算２　（課題提出）
１３	PowerPoint(1)　発表資料の作成方法
１４	PowerPoint(2)　基本操作　（課題提出）
１５	まとめ

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：渡邉裕（編）(2022). ICT リテラシー＆メディア入門　みらい,　山本浩司 (2021). かんたん iMove 動画編集入門　技術評論社

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実習）	授業担当者
保育者の教養Ⅰ		講義	親泊　朝晴
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
１５回	２単位	１年前期	必修（保）・選択（幼）

保育士養成課程による系列（告示等による教科目名）	[単位認定の方法及び基準]（試験やレポートの評価基準など）
教養科目 幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分 選択科目	作文演習　４０％　その他演習のまとめ　３０％ 語彙力テスト・提出物　３０％

［授業の目的・ねらい］

さまざまな場面におけるコミュニケーション能力の向上を目途とする。正しい語彙力、的確な表現力や伝達する力を養成し、演習を通して実務への対応力を習得し、保育者としての素養を高める。

［授業全体の内容の概要］

連絡帳の記入や指導計画等の書類作成の基本である言葉を身につける。また、作文演習を通じて、子どもや保護者に対し事実や考えを分かりやすく伝達する表現力を養成する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

言葉への正しい理解を深め、その語彙力を自己の表現力の基盤とし、日常生活や職場において、円滑なコミュニケーション力として発揮できるようになること。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数		
1	授業ガイダンス（教科の目標・評価基準の説明）作文演習①（課題）・語彙力テスト（試行）	
2	作文の書き方（演習を通して基本を学ぶ）	語彙力テスト１
3	作文演習①の講評　　作文演習②	語彙力テスト２
4	実務的な表現（実習礼状・手紙の書き方の基本）	語彙力テスト３
5	作文演習②の講評　　作文演習③	語彙力テスト４
6	実務的な表現（保護者宛文書・手紙の書き方の基本）	語彙力テスト５
7	作文演習③の講評　　作文演習④	語彙力テスト６
8	実務的な表現（実習日誌の書き方）	語彙力テスト７
9	作文演習④の講評　　実務的な表現（指導計画の書き方）	語彙力テスト８
１０	実務的な表現（連絡帳の書き方）	語彙力テスト９
１１	実務的な表現（敬語を学ぶⅠ）	語彙力テスト 10
１２	実務的な表現（敬語を学ぶⅡ）　既習内容の復習	語彙力テスト 11
１３	小論文演習（作文演習のまとめ）既習事項の確認と語彙力テスト	
１４	まとめⅠ（学習の振り返りと確認）	
１５	まとめⅡ（学習の復習・確認と今後の課題・学習方法の検討）	語彙力テストまとめ

［使用テキスト・参考文献］

授業中に適宜、資料を配布する。

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
こどもの音楽Ⅰ		演習（実技）	堀切真寿美、前田聡子、阿部宏絵 豊田牧子、梶原裕子、福田登志子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年前期	選択必修（保）・選択（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
選択必修 幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分 選択科目	ピアノ演奏　60% 歌の発表　30% 授業への取り組み姿勢（チェックシートなど）　10%

［授業の目的・ねらい］

様々な音楽活動を通して、感性豊かな表現を育む。豊かで、楽しい音楽経験を展開できる保育者を目標とする。

［授業全体の内容の概要］

１クラスを合同授業とピアノの個人レッスンに分け、４５分交代とする。合同授業では、子どもと一緒に音楽を楽しむために、発声の基礎と童謡の歌唱法を習得する。また、子どもが意欲を持って歌を楽しめるよう、歌への興味を引き出せる指導のポイントを理解する（４５分)。ピアノの個人レッスンでは、個人の能力に応じた課題を演習する（４５分)。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

音楽に関する基礎知識を学び、歌やピアノを用いた音楽表現のための基礎技能を習得する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数		
1	（合同授業） ガイダンス（授業概要の説明、受講の諸注意、前期まとめについて）	（個人レッスン） 学生の進度に応じた個人レッスン
2	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
3	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
4	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
5	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
6	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
7	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
8	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
9	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
１０	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
１１	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
１２	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
１３	歌唱指導（生活の歌・季節の歌）	（個人レッスン）
１４	前期まとめ【ピアノ演奏３分程度、歌の発表】	
１５	前期まとめ【ピアノ演奏３分程度、歌の発表】	

［使用テキスト・参考文献］

(1)株式会社　学研プラス「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第１巻改訂版」
(2)株式会社　学研パブリッシング「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第２巻」
(3)（有）ケイ・エム・ピーkmp　「ピアノといっしょに　みんなでうたう　たのしいこどものうた 改訂版　簡易伴奏ピアノ・ソロ」
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
必要に応じてプリントを配布する

備考

ピアノ演奏は、音楽表現教室にて発表を行う。また、歌の発表は、100人教室にて発表を行う。

実務経験〔前田〕
ヤマハのピアノ講師の経験を持つ

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
こどもの音楽Ⅰ		演習（実技）	堀切真寿美、前田聡子、阿部宏絵 豊田牧子、梶原裕子、福田登志子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	２単位	１年後期	選択必修（保）・選択（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
選択必修 幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分 選択科目	ピアノ演奏　60% グループ発表　35% 授業への取り組み姿勢（チェックシートなど）　5%

［授業の目的・ねらい］

様々な音楽活動を通して、感性豊かな表現を育む。豊かで、楽しい音楽経験を展開できる保育者を目標とする。

［授業全体の内容の概要］

１クラスを合同授業とピアノの個人レッスンに分け、４５分交代とする。合同授業では、子どもが意欲を持って歌を楽しめるよう、歌への興味を引き出せる指導のポイントを習得する。グループでドラムジカを作り、発表する（４５分)。ピアノの個人レッスンでは、個人の能力に応じた課題を演習する（４５分)。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

音楽に関する基礎知識を学び、歌やピアノを用いた音楽表現のための基礎技能を習得する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数		
1	（合同授業） ガイダンス（授業概要の説明、受講の諸注意、後期まとめについて）	（個人レッスン） 学生の進度に応じた個人レッスン
2	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	（個人レッスン）
3	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	（個人レッスン）
4	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	（個人レッスン）
5	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	（個人レッスン）
6	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	（個人レッスン）
7	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	（個人レッスン）
8	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	（個人レッスン）
9	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	（個人レッスン）
１０	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	（個人レッスン）
１１	歌唱指導、発表に向けたグループ活動	（個人レッスン）
１２	後期まとめ【ピアノ演奏３分程度、グループ発表１０分程度】	
１３	後期まとめ【ピアノ演奏３分程度、グループ発表１０分程度】	
１４	教育実習にむけたグループ活動	（個人レッスン）
１５	教育実習にむけたグループ活動	（個人レッスン）

［使用テキスト・参考文献］

(1)株式会社　学研プラス「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第１巻改訂版」
(2)株式会社　学研パブリッシング「保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第２巻」
(3)（有）ケイ・エム・ピーkmp　「ピアノといっしょに　みんなでうたう　たのしいこものうた 改訂版　簡易伴奏ピアノ・ソロ」
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）
必要に応じてプリントを配布する

備考

ピアノ演奏は、音楽表現教室にて発表を行う。また、グループ発表は、100人教室にて行う。

実務経験〔前田〕
ヤマハのピアノ講師の経験を持つ

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
こどもの造形		演習（実技）	森　大
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	１単位	１年前期	選択必修（保）・選択（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
選択必修	課題提出物 40% 授業態度 10% 授業内確認小テスト 50%
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
選択科目	

［授業の目的・ねらい］

子どもの年齢や発達に合わせた造形活動指導方法を実践を通して理解し習得する。
保育者として必要な造形技能の基礎を習得する。
自らの創造性を育み、発想力を鍛える。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園・保育園で保育者が指導する造形活動の技能（道具・材料の扱い、準備・片付けの仕方、制作工程、指導の留意点、声かけの仕方など）を自らが実践して学ぶ。
子どもへの造形指導方法だけでなく、保育者として園の運営に関わる造形技能を学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

年齢や発達に合わせた子どもへの造形活動指導方法を理解し習得していること。
習得した技能を活用し実践及び応用できていること。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	ガイダンス（造形活動の意義、技能について。基礎的な道具・材料について。）
2	自己紹介を通して（イラスト・キャラクターの描き方の基礎を学ぶ）
3	造形材料について①（発想を豊かにする材料の取り扱いについて学ぶ。シールアート。）
4	造形材料について②（紙材料の取り扱い。折り紙、切り紙。）
5	造形材料について③（絵具の取り扱い。混色。）
6	立体造形制作Ｉ－①（張り子のお面制作。材料・技法について。）
7	立体造形制作Ｉ－②（張り子のお面制作。装飾、仕上げ方について。）
8	立体造形制作Ｉ－③（張り子のお面制作。応用について。）
9	モダンテクニック①（フロッタージュ技法を通してモダンテクニックを学ぶ。）
１０	モダンテクニック②（マーブリング・折染め技法を通してモダンテクニックを学ぶ。）
１１	共同制作について①（グループ単位での共同制作を通して協同や役割の意義について学ぶ。）
１２	共同制作について②（クラス単位での共同制作を通して協同や役割の意義について学ぶ。）
１３	造形材料について④（様々な接着方法を学ぶ。セロハンテープアート。）
１４	造形活動のまとめ
１５	前期の学習の振り返り

［使用テキスト・参考文献］

幼児造形の基礎　乳幼児の造形表現と造形教材　(2018 年度版　萌文書林)
幼稚園教育要領
保育所保育指針
幼保連携認定こども園教育・保育要領

備考

定期テストは実施しない

実務経験
【個展】 「森　大　個展」　　「秋山画廊」　東京　2011 年 12 月 「森　大　-maquette-」　「キアズマ珈琲　gallery」　東京　2010 年 10 月 「森　大　展　metabolism」　「GALERIE SOL」東京　2006 年 10 月 「森　大　個展」　「GALERIA RASEN」東京　2001 年 3 月 【グループ展】 「横浜の森美術展 6」　「横浜動物の森公園予定地」　横浜　2013 年 10 月 「11　POINT」　「BOX KIOKU」　東京　2010 年 9 月 「ANBD Asia Network Beyond Design2010」　清州（韓国）. 台南（台湾）. 天津（中国）. 横浜（日本）2010 年 7 月 「ANBD Asia Network Beyond Design2009」　天安（韓国）. 台南（台湾）. 天津（中国）. 奈良（日本）2009 年 7 月 「THE 5th ART PROGRAM OME 2007」　「青梅市西分町公会堂」　東京　2007 年 11 月 「第 7 回 CONTEMPORARYART TRIAL「CAT 展」　「グリーンホール相模大野」　神奈川　2007 年 9 月 「07 POINT」　「BOX KIOKU」　東京　2007 年 3 月 「maquette 展」　「GALERIE SOL」　東京　2006 年 10 月 「cm3 空間表現三人展」　「明星大学展示室」　東京　2005 年 8 月 「千崎千恵夫・森　大展」　「GALERIE SOL」　東京　2004 年 11 月 「青梅野外展」　「GALERIA RASEN」　東京　2002 年 7 月 「志向する空間／それぞれの視座 Vol.3」　「GALERIA RAEN」　東京　2001 年 11 月 「WORKS2000」　「文房堂ギャラリー」　東京　2000 年２月 「第二回 FUJINO 国際アートシンポジウム‘99」　神奈川県藤野町市街地　1999 年 8 月 「三人展」　「Gallery KARIN スペースⅡ」　東京　1998 年 3 月 【他】 Japan Fashion Week in TOKYO 2008 (株)キャンザーオンズ「ENCADREURS」アートディレクター　「国立代々木競技場第一体育館」　東京　2008 年 2 月 「さいたま新都心駅前パブリックアート」　さいたま新都心駅前広場　恒久設置　2000 年 5 月

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
幼児体育		演習	福原　千枝
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
１５回	１単位	1年後期	選択必修（保）・選択（幼）

保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)	[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)
選択必修	授業課題の習熟度（４０％） 創作ダンスの発表（５０％） 授業への取り組み方（１０％）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
選択科目	

［授業の目的・ねらい］

幼児期の運動遊びの大切さと保育者の役割について理解する。
運動遊びの実践を通して、その遊びの特性、楽しさ、指導のポイントを理解し、指導・援助方法を習得する。

［授業全体の内容の概要］

幼児の体操・伝承遊び・運動遊びの実践的学習を行い、遊びの特性、楽しさ、指導のポイント、指導・援助方法を学ぶ。最後は身体表現遊びを行い、創作ダンス発表会を行う。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

運動遊びの大切さを理解し、保育者の役割について認識を深める。
運動遊びの指導・援助方法を理解・習得し、子どもと楽しく遊ぶことができる。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数	
1	ガイダンス、初めて会った時の遊び、「アヒルのダンス」
2	「バナナくんたいそう」、伝承遊び①なべなべそこぬけ　②はないちもんめ　③あわぶくたった
3	「バナナくんたいそう」、幼児の発達に応じたボール遊び①持つ、投げる
4	「かえるのたいそう」、幼児の発達に応じたボール遊び②転がす、蹴る
5	「どうぶつたいそう１・２・３」、幼児の発達に応じたボール遊び③ゲーム
6	「どうぶつたいそう１・２・３」、幼児の身体を使った遊び①鬼遊び
7	「ちょっとだけ体操」、幼児の身体を使った遊び②力くらべ遊び
8	「ちょっとだけ体操」、道具を用いた遊び①縄遊び
9	「ディズニー体操」、道具を用いた遊び②マット遊び
１０	「ディズニー体操」、道具を用いた遊び③新聞紙遊び
１１	「秘伝ラーメンたいそう」、身体表現遊び「はたらくくるま」　グループ毎の即興表現、発表
１２	「昆虫太極拳」、身体表現遊び「だんごむし」「忍者」イメージの探求、グループ毎の即興表現
１３	「ジャンボリーミッキー」、身体表現「忍者」グループ毎の創作活動、発表
１４	「ジャンボリーミッキー」、創作ダンス「世界のお話を表現しよう」グループ毎の創作活動
１５	創作ダンス「世界のお話を表現しよう」発表会

［使用テキスト・参考文献］

授業時に、適宜資料等を配布する。
保育所保育指針、幼稚園教育要領
幼保連携型認定こども園教育・保育要領

備考

定期テストは実施しない

授業のタイトル(科目名)		授業の種類 (講義･演習･実習)	授業担当者
保育実習Ⅰ		実習	齊藤　静枝・初谷　千鶴子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年･時期	必修･選択
実習１１日（保育所） 実習１１日（施設）	４単位	１年次後期終了後 ２年次	必修（保）
保育士養成課程による系列(告示等による教科目名)		[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など)	
保育実習		実習所からの評価表（80%） 実習録（20%）	
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分			

［授業の目的・ねらい］

保育所や福祉施設での実習を通し、それぞれの役割・機能、業務内容、対象者への理解、その保護者への支援について理解を深める。さらに、それぞれの観察と既習内容を踏まえ、計画・記録・自己評価等の理解に結びつける。
保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解をする。

［授業全体の内容の概要］

保育所やそれ以外の児童福祉施設において、それぞれの役割や機能、子ども・対象者への理解、保育内容や生活環境への理解を深める。さらに、指導計画（支援計画）を学び、記録や自己評価への反映方法を知る。
また、専門職としての倫理について、習得する。保育所実習：平日１１日間９０時間以上、
児童福祉施設実習：１１日間９０時間以上。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

保育所の役割や機能、保育士の業務内容や倫理観を習得する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

【保育所実習】

１．保育所の役割、機能について（保育所保育指針に基づいて）
２．子どもの理解（観察と記録から）
３．保育内容や保育環境について
４．保育の計画・観察・省察（評価の理解を含む）
５．保育士の役割と職業倫理（業務内容、連携、協働）

【児童福祉施設（保育所以外)】

１．施設の役割、機能について（施設における子どもの生活、保育士の援助）
２．子どもの理解（観察と記録から　　援助の状態に応じた生活と対応）
３．子どもの生活と環境（心身の状態に応じた生活と対応　健康・安全管理対策）
４．計画と記録（支援計画の理解、活用、省察、自己評価）
５．専門職としての役割・職業倫理（業務内容、連携）

［使用テキスト・参考文献］

テキスト
小林育子他（2018)「幼稚園・保育所・施設実習ワーク」萌文書林
大本千種監修（2021)「実習の日誌と指導案サポート」ナツメ社
参考書・参考資料等
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領（2018）

備考

定期テストは実施しない

実務経験〔齊藤〕
公立保育所において保育士（正職）として 40 年間勤務する内、クラス担任 30 年、園長、副園長として 10 年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。
実務経験〔初谷〕
保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実習）	授業担当者
保育実習指導Ⅰ		演習	齊藤　静枝・初谷　千鶴子
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
３０回	２単位	１年前期・１年後期	必修（保）

保育士養成課程による系列（告示等による教科目名）	［単位認定の方法及び基準］（試験やレポートの評価基準など）
保育実習	授業内提出物（70%） 報告書（30%）
幼二種取得に関わる免許法施行規則による区分	
その他	

［授業の目的・ねらい］

１．保育実習の意義、目的を理解する。
２．実習生としての心構えを理解し、職業倫理を形成する。
３．保育実習の内容（保育所・施設）を理解する。
４．実習の実践、観察、指導案、記録の方法や内容について理解する。
５．実習の事前学習を通して実習に向けた課題を明確にし、事後的反省を通して実習についての自己評価と今後の課題を明確化させる

［授業全体の内容の概要］

保育実習（保育所・施設）を行ううえでの知識・技術の習得をとおして、実習の観点、日誌の記録の方法を学習し、実際の計画立案につながる実習課題を明確にする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

保育実習の意義や目的を理解し、保育所や施設の内容（特性）を習得する。

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1	オリエンテーション（保育実習の概要・実習の手続き）
2	保育実習の目的・方法について
3	実習生としての心構え（１）（守秘義務・人権尊重）
4	実習生としての心構え（２）（子どもの最善の利益・職業倫理）
5	履歴書記載指導
6	保育実習の内容（保育所）①（3 歳未満児）
7	保育実習の内容（保育所）②（3 歳以上児）
8	保育実習の観察の観点（乳幼児の発達）
9	保育実習の観察の観点（乳幼児の安全）
１０	日誌の記録の方法について（全般）
１１	日誌の記録の方法について（3 歳未満児）
１２	日誌の記録の方法について（3 歳以上児）
１３	日誌の記録の方法について（まとめ）
１４	部分・責任実習・指導案の立案の実際①
１５	保育実習にむけた課題の明確化①

保育実習指導Ⅰの続き

１６	部分・責任実習・指導案の立案の実際②
１７	児童福祉施設の概要と現状について
１８	施設保育士の役割の理解
１９	施設入所児童・利用者の理解①（措置系施設）
２０	施設入所児童・利用者の理解②（利用契約系施設）
２１	施設実習における観察の観点
２２	施設実習における日誌の記録方法
２３	入所児童・利用者の権利擁護
２４	保育実習直前指導（具体的な留意事項）
２５	保育実習直前準備
２６	保育実習の目的の確認と心得
２７	保育実習にむけた課題の明確化②
２８	保育実習事後指導　①
２９	保育実習事後指導　②
３０	保育実習の自己評価と今後の課題の明確化

［使用テキスト・参考文献］

厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館
岡本幹彦編『福祉施設実習ハンドブック』みらい社
吉田真理「保育実習」青踏社
大元千種監修『実習の日誌と指導案サポートブック』ナツメ社
参考書・参考資料等：幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領（2018）
DVD「はじめての保育実習Ⅰ・Ⅱ」株式会社新宿スタジオ

備考

定期試験は実施しない。

実務経験〔齊藤〕

公立保育所において保育士（正職）として 40 年間勤務する内、クラス担任 30 年、園長、副園長として 10 年の経験を活かして、実践的な授業を実施する。

実務経験〔初谷〕

保育士として保育所、児童相談所での勤務経験、社会福祉士・精神保健福祉士としてのスクールソーシャルワーカーの経験を活かし、子ども家庭福祉分野・社会的養護における現状とその課題、支援のあり方についてより実践的な授業を実施する。